

1. 第 25 回地域安全学会研究発表会（秋季）報告

第 25 回（2009 年度）地域安全学会研究発表会が、2009 年 11 月 6 日（金）～11 月 7 日（土）の 2 日間、静岡県地震防災センターにおいて開催され、査読論文の発表の他、一般論文ではポスター発表が実施されました。また、審査の結果、論文奨励賞 3 編が選考されました。本年度より本会の査読論文として電子ジャーナル論文が追加・新設されましたので、論文賞につきましては、電子ジャーナル掲載論文が決定した後、研究発表会論文と合わせて本年度の本会の全ての査読論文を対象に審査を実施致しますので、審査結果の報告は次号のニューズレターとさせていただきます。

論文の発表及び質疑の概要は学会のホームページに収録しましたのでご覧ください。

ここでは、論文奨励賞の審査結果について報告します。

全面的なご協力をいただいた静岡県総務部危機管理局、ならびに（財）静岡総合研究機構防災情報研究所に深く感謝します。

第 11 回 論文奨励賞審査報告

地域安全学会 学術委員会

今年で 11 回目となった査読論文の募集に対し、計 69 編の論文が投稿され、査読者および学術委員会による厳正な審査の結果、42 編の論文が登載可と判定された。この査読論文を掲載した地域安全学会論文集 No.11 が 2009 年 11 月に発行され、11 月 6～7 日に開催された第 25 回地域安全学会研究発表会において査読論文の発表が行われた。

査読論文発表の終了後、地域安全学会論文奨励賞の審査が行われた。ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

■平成 21 年度「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の審査要領

1. 授賞対象者

- 1) 「地域安全学会論文賞」の授賞対象者は、「地域安全学会論文集」（研究発表会論文および電子ジャーナル論文）に掲載された論文の著者で地域安全学会会員であり、原則として筆頭著者および共著者全員とする。
- 2) 「地域安全学会論文奨励賞」の授賞対象者は、「地域安全学会論文集」に掲載された「研究発表会論文」の筆頭著者でかつ研究発表会で発表を行なった者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある者とする。ただし、再受賞は原則として認めない。

2. 審査方法

- 1) 学術委員会委員全員、および学術委員長が委託する若干名から構成される審査会が審査を行なう。
- 2) 審査は、当該論文の新規性、有用性、完成度を評価の対象として、これを行う。ただし、「地域安全学会論文奨励賞」については、研究発表会当日の発表、質疑への応答を評価の対象とし

て加える。

3) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

1) 賞は「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」と称する。

2) 「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の表彰は、賞状並びに記念メダルを贈り、これを行なう。

3) 表彰は選考された次年度の総会で行なう。

■審査概況(地域安全学会論文奨励賞)

1. 審査会

平成 21 年度の審査は、13 名（欠席 1 名）の学術委員と、学術委員長が委託した 1 名の地域安全学会理事（宮野副会長）で構成される審査会が、42 編の査読論文に対して行われた。

2. 審査方法

審査対象論文の共著者である審査委員は、当該論文の審査から除外し、審査委員は除外された論文以外の全ての論文に対して審査を行なった。各審査委員は、「地域安全学会論文奨励賞」候補については 3 件程度を選出し、審査会において両賞の候補について審議し受賞対象者を決定した。

■審査結果(地域安全学会論文奨励賞)

審査会における審議の結果、以下の 3 編の論文の筆頭著者が選出された。

- ・「神戸市兵庫区における障害者の災害時要援護度マッピングの実施研究:脆弱性の『人-環境相互作用モデル』に基づいて」

コマファイ ニコール（同志社大学大学院社会学研究科）

- ・「事業継続計画策定に向けた業務分析結果を用いた危機対応マニュアルの階層化及び人的資源分析に関する研究 -大阪市水道局における検証を通じて-」

山下 涼（大阪市水道局）

- ・「QR コードを利用した位置情報取得システムの開発」

東田 光裕（西日本電信電話株式会社）

(2) 地域安全学会論文賞・論文奨励賞の授与式

論文賞・論文奨励賞の授与式は、17時30分からの総会会場で行われました。授与式では、論文賞・論文奨励賞受賞者選出までの経緯が報告され、つづいて重川会長から受賞者に、賞状と記念メダルが授与されました。

2009年度の学術研究発表会(査読論文部門)では、69編の投稿論文から査読審査を通過した42編の査読論文の研究結果が発表されました。また、2009年度より新設した電子ジャーナルにも査読審査を通過した11編の論文が掲載されました。研究発表会での審査により発表や質疑の内容も加味した論文奨励賞が選考され、電子ジャーナル掲載論文が全て決定した後に審査会を実施し、推薦された候補者の中から論文賞の授賞対象者の審議を行った結果、以下の方が論文賞及び論文奨励賞の受賞者として選ばれました。

(学術委員会)

◆◆◆◆◆ 2009年度地域安全学会論文賞 ◆◆◆◆◆

審査会における審議の結果、今年度は「該当無し」と決定致しました。

◆◆◆◆◆ 2009年度地域安全学会論文奨励賞 ◆◆◆◆◆

■コマファイ ニコール (同志社大学大学院社会学研究科)

「神戸市兵庫区における障害者の災害時要援護度マッピングの実施研究:脆弱性の『人-環境相互作用モデル』に基づいて」

I would like to express my sincerest gratitude to the ISSS for this recognition. It is truly an honor to receive this award which I share with my co-authors and everyone who helped me through this research. First of all, a heartfelt thanks to my adviser Dr. Shigeo Tatsuki. Through his generous guidance, patience and encouragement I am able to reach my potential. A special thanks to my colleagues in Doshisha University for their help and support. Finally, I am forever indebted to the government employees and citizens of Hyogo-ku, Kobe city for teaching me that by working together, disability does not necessarily equate to vulnerability neither in everyday life nor in time of disaster. This award has given me renewed energy to continue learning more about how to reduce vulnerability from risk for a safer society.

【指導教員からの一言】立木茂雄 (同志社大学・社会学部・教授)

ニコール・コマファイさんの論文奨励賞は、神戸市兵庫区における心身障害者の災害脆弱性を、訪問社会調査に基づき「想定ハザード・主体要因・環境要因」の3項から多角的に計量し、その結果を地図化する研究に与えられたものです。本研究より、兵庫区在住の4,411名の障害をもつ神戸市民のうち、災害脆弱性が最も高いと判定されるのはそのうちの約3.5%であり、災害時の個別支援計画づくりはまずこの人たちから進めるべきであることが示唆されました。本研究は兵庫区地域自立支援協議会防災部、神戸市保健福祉局計画調整課および神戸市兵庫区健康福祉課の皆さまからの

ご指導やご協力のおかげで受賞できたものです。ここに記し感謝申し上げます。今回の受賞をはげみに、福祉防災学の構築に向けてコマファイさんがなお一層励んで行かれることを期待しています。

■山下 涼（大阪市水道局）

「事業継続計画策定に向けた業務分析結果を用いた危機対応マニュアルの階層化及び人的資源分析に関する研究 ー大阪市水道局における検証を通じてー」

このたびは、栄誉ある地域安全学会論文奨励賞をいただき、ありがとうございました。受賞論文は、大阪市水道局が事業継続計画の策定にあたって、京都大学と共同研究を実施した成果の一部です。まず、ご指導賜りました林春男先生に、心より御礼申し上げます。また、水道局職員による15回を数えるワークショップの実施にあたり、新潟大学の田村圭子先生、京都大学の浦川豪先生をはじめ、多くの方々にご指導、ご尽力を賜りましたことに感謝申し上げます。大阪市水道局では、この成果をもとに事業継続計画の策定とマニュアルの見直しを行っており、平成22年度より事業継続マネジメントシステムとして運用を図り、更なる改善に努めているところです。今後もライフライン事業に携わるものとして、社会の事業継続性の向上に微力ながら貢献できるよう、更なる自己研鑽に努める所存でございます。

■東田 光裕（西日本電信電話株式会社（当時））

「QR コードを利用した位置情報取得システムの開発」

この度、地域安全学会より論文奨励賞を受けましたことを非常に光栄に思っております。これまでの研究生活は、地域安全学会とともにあったといっても過言ではありません。当初は諸先輩方の素晴らしい論文に感動するとともに、自身の研究の糧としてまいりました。あれから10年、私がかような賞をいただけるとは、正直思っておりませんでした。本論文は約5年前から行っておりました研究の成果であり、共著者でもある京都大学の林先生のアイディアとご指導、そして技術的な助言やシステムを開発いただいたデュプロ株式会社の松下様をはじめたくさんの方々のご支援と努力の賜と考えています。今回この栄誉ある賞をいただきましたが、これを新たな出発として初心に戻り、社会の安全・安心につながる研究開発に精進していくつもりでおりますので今後ともよろしくお願いいたします。

【山下さん東田さんの受賞に対する指導教員からの一言】林 春男（京都大学・防災研究所 巨大災害研究センター・教授）

大阪市水道局にお勤めの山下 涼さんと、当時 NTT 西日本神戸支店にお勤めだった東田光裕さんが、論文奨励賞をとられたことを大変うれしく、また誇りに思っています。お二人ともいわゆる「学」の研究者ではありません。それぞれ立派な企業体に所属する、いわゆる「サラリーマン」です。研究の遂行には制約もたくさんあると推測します。しかし、そこでの活動からすぐれた研究がうまれたことを大変うれしく思います。さらに、どちらの成果も、災害発生後に組織体がすべき対応は何か、それを効果的・効率化なものにするためにどうすべきかという危機対応の実践に深くかかわった「本物の問題」扱った研究です。この二つの論文がきわめて質の高い、しかも汎用性のある技術的なソリューションの提供を目指していることを大変誇りに思います。防災の問題は「学際実学」だと思っています。これは異なる学問分野の「先生方」が共同してことにあたる必要があるという

だけでなく、産官学民のさまざまなステイクホルダーが効果的なソリューションを目指すことが必要性です。今回の受賞は、それを実現する方向に学会が後押ししているようにも思え、このお二人を選んだ学会も素晴らしいと思います。